

# 平成27年度 学校法人三幸学園 広島リゾートアンドスポーツ専門学校

## 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島 英和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 末光 憧伍

### 1. 学校の教育目標

素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献できる人材の育成。  
スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材の育成。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

主体性を持った生徒の育成。スポーツと健康を取り巻く社会情勢を理解し、業界にとって真に必要な人材となるための社会人基礎力と専門知識・技術を兼ね備えた人材育成。

組織(三幸学園)の掲げるミッション・ビジョン及び目指す育成人物像を全教職員に対して理解・浸透を図る。

スポーツ業界との連携による実践的学習(総合演習、スポーツデザインコンペティション開催、業界講話等)、求める人物像の把握による学校教育の課題発見。

パワーポイント等視覚教材の活用による学習理解度の深化。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

#### ① 課題

スポーツ業界との連携を深め、業界の求める人物像を的確に掴み教育目標、育成人物像に反映すること。

またそうした”社会が求める人物像”を学生および保護者へ更に周知し、それに伴う教育への理解を更に深めること。こと保護者においては授業、実習、学校生活党に対しより一層の理解と協力を得ること。

#### ② 今後の改善方策

関連企業・団体との連携を深めるための訪問・面会、研修等の機会を増やす。また地域に限定しない全国的な業界の動きを掴み、情報を収集する。関連企業に対しては本校教育への理解と連携構築へのアプローチをする。

産学連携を推進し、業界に対して本校学生により貢献と協力を、あた本校教育への参画と協力を求め、相互にメリットのある関係構築する企業を増やしていく。

#### ③ 特記事項

特になし。

#### ④学校関係者評価委員会コメント

教育理念・教育目標の浸透は学生・保護者ともにまだ浅いと感じる。理念、目標に沿った教育が行われているのは事実だが、周知方法や理解の深化により、よりよい教育が展開されるのではないかと。

現場の第一線で活躍する講師との連携を増やし、より現場が求める人材ニーズを察知し環境を作ることが必要である。

産学連携により起こる双方のメリットをもっと意識し、教育・社会貢献の両面で相乗効果が生まれる環境を作ることにも必要ではないかと。

### (2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

#### ① 課題

運営に関する意志決定機能は、職務権限により明確化されているが、都度教職員間の相互確認や上長への相談と指示命令によるところが大きい。

情報システムに関する専門知識を持った教職員が少なく、学園本部のシステム担当者への問い合わせが多い。そのためシステムトラブルにおける業務の遅滞が散見する。

#### ② 今後の改善方策

内規により明確な運営規則の制定と教職員間の周知徹底を図る。また共通認識を持てる運営マニュアルの作成を行う。

学園本部のシステム開発室およびサポートデスク(ヘルプデスク)との連携を深めシステムトラブルの防止及び発生時の対応を速やかに行い教育活動の遅滞をなくす。

#### ③ 特記事項

特になし。

#### ④学校関係者評価委員会コメント

フィットネスクラブの現場でもスタッフがタブレット端末による顧客情報管理を活用し始めている。情報のシステム化により接客の質・効率両方を向上させることは可能で、これを学校教育にも置き換えると導入の検討予知は充分にあるのではないかと。

今後も、業界は日進月歩で変化・深化していくため、指導する側の教職員にもより深い業界理解は必須になると考える。

### (3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 ② 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

#### ① 課題

運営側の教職員においてスポーツ業界の最新情報、最新の情勢等への理解と把握が弱い。またそれらを補強するための研修の機会が少ない。

#### ② 今後の改善方策

教育課程編成委員会による関連業界委員の意見を集約しそれらを元により具体的に教育活動への還元及びより実践的、体系的な教育課程の編成に向けて検討を進める。

現在インターンシップ実習等により連携を図っている業界団体と、より密な連携を継続的かつ定期的に行うため、意見交換会の実施や、学生の事例研究発表への参加要請などを行う。

また、教職員への専門分野における知識・技能を習得するための研修を継続的に実施し、それらを実際の教育現場にてアウトプットしていく。

#### ③ 特記事項

特になし。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

施設実習の意義・目的(学校側が求めるもの)が不明確なケースが見受けられる。現状では施設実習で学

生が実践したい内容と企業を取り入れる内容(指導・提供する内容)にギャップがある。学校の実習に対する方針をより明確に企業側に伝えていくことが必要。

また、現場においてはCRPなどのリスク管理に関する知識は必須であることから、学生においてもそういったリスク管理ができるようになるカリキュラムの導入を希望する。

#### (4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

##### ① 課題

退学率においては低減のための様々な取り組みを行い一定の成果が出ているものの、より一層の成果を出すための新たな取り組みなど、現状に対し改善の余地がある。

卒業生・在校生の社会的な活躍・評価を把握しきれていない。

##### ②今後の改善方策

入学前の学生および保護者への事前説明と学校方針への理解を求めするためのガイダンスを実施する。

クラス担任による学習成果および学校生活の様子把握と、教科担当への情報提供また教科担当からの情報収集により、学生のモチベーションの変化や細かな動向の変化をタイムリーにキャッチし、退学防止に努める。

##### ③ 特記事項

特になし。

##### ④学校関係者評価委員会コメント

入学時にはチームでのトレーナー活動などを希望する学生も多くいる一方、就職先としては現実的には非常に少ない。違う業態での現場ニーズはあるため(例:フィットネスクラブ)生徒が業界を正しく理解し、妥協ではなく希望を持って就業できるよう就職指導をしていただきたい。

また、スポーツ業界において「国家資格がないと活躍できない」という偏見があるのも事実だが、資格は一つの強みであり知識の引き出しとして活用するよう学生にも意識を持ってもらい、様々なスポーツに関わる業界で活躍できる人材育成をしてもらいたい。

#### (5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1

学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

学生の健康管理については学生本人の自己管理によるところが大きく、万全とは言えない。

卒業後の継続的な学校との連携は教員個人によるところが大きい。また卒業生のキャリア形成を促進・補助するシステムが学校としてはできていない。

② 今後の改善方策

年度初めの健康診断結果による実技授業への参加見直しなど、万が一の体調不良や継続的な治療の必要有無把握など学校側の管理体制を強化していく。

卒業後の継続的な学校との連携は教員個人によるところが大きい。

また卒業生のキャリア形成を補助するシステムができていない。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1

学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。



③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

地域貢献活動においては十分とは言えない。

② 今後の改善方策

地域へ開かれた学校として、積極的に情報公開、施設貸し出しなどを実施する。

また教育連携企業様と共同での地域貢献活動へ参画するなど、地域貢献を目的とした教育活動を体系的に実施し、地域社会に開かれた学校教育を行っていく。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

地域貢献として校舎を開放したスポーツイベントなどを実施してみてはどうか。教育機関として地域に認められるためには、学校と地域社会が連携していくことも必要である。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

留学生の受け入れ実績がないため、課題及び方策については不明。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

特になし。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

財務及び学校運営においては概ね健全と思われる。

開校 6 年を迎え、地域のスポーツ業界においては本校の認知度、貢献度ともに年々増している実感である。しかし一方で業界の期待に応えられていないケース(現場実習での学生の取り組み・成果への低評価、就業先での想定しない早期退職や能力・成長に対し期待に応えられていない、など)も散見する。

また、本校入学後、学習を進める中で、入学時に持っていたモチベーションを維持できずドロップアウトする学生も少なからずおり、学習意欲の維持向上と、卒業後の業界で活躍できる人材の育成という共通の目標に対し全教職員による統一した認識と、指導力の向上は必要不可欠である。

本校講師には、現在もスポーツ現場の第一線で活躍している人が多く、また教育連携を図っている企業様との様々な活動も含め、現場のニーズを的確に把握し教育活動に反映させていきたい。

平成 28 年度内の職業実践専門課程申請に向けて、教育課程編成委員会、学校関係者委員会による各関連業界の方や、卒業生、保護者等による本校教育への課題、提案などを収集し今後それらをもとに教育課程及び教育活動の見直しを図っていきたい。

卒業生との関係については、スポーツ分野の業界特性でもある業界内の人のつながりを活用し、継続的な関係の構築を進めていきたい。また卒業生勤務先への定期的な訪問や情報収集を積極的に行うことにより、関係の構築に努めていきたい。